

白ワインにあう北の生マリネ

2024料理王国100選特別賞受賞



当社が昨年夏に新発売した、初の洋食加工品「白ワインにあう北の生マリネ」が、既に昨年末に速報で伝え通り、プロの料理専門誌「料理王国」が主宰する「料理王国100選」に選ばれた。

2024年ローカルキング賞に独自の商品開発姿勢を評価

「地域を超えて活躍して欲しい」という期待を込めて、独立行政法人中小企業基盤整備機構と連携して選定した特別賞で、品質と美味しさを高く評価される形となった。



料理王国100選ローカルキング賞を受賞した「白ワインにあう北の生マリネ」

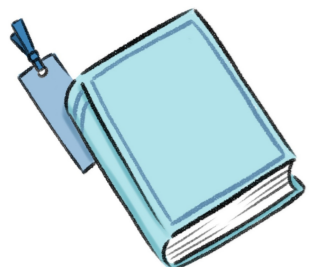
1月22日からクラウドファンディングスタート

当社商品も支援者にお届け

当社代表の赤裸々体験本

支援基に自費出版本発行へ

「クラウドファンディング」を、1月22日午前9時からスタートした。これは、かねてから当社及



「SNS」から詳細をダウンロード



キンキン新聞

中井英策商店とお客様を結びつくりつづける新聞

キンキン新聞 第51号 編集・発行元 株式会社中井英策商店 北海道伊達市南緯町18-12



高松城跡公園

ふわふわ、トロトロわらび餅



ふわふわ、もちもち わらび餅を頬張り また、このカフェで名物になっていくのが「台湾カステラ」と言うお菓子なのだそうだが、カフェもお休み、台湾カステラの看板も全くな... 「あれっ？今日は何も休みなの？」と思う平日の午前中だった。

4年ぶり賑やか歓声響く 家族参加大忘年会開催

当社、中井英策商店は、昨年末十二月二十九日、仕事納めを行った後、コロナ前から4年ぶりに社内忘年会を盛大に行った。

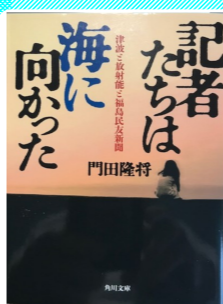
当社では、毎年仕事納め後に、当社で働く従業員だけでなく、その家族も招待して一年の労をねぎらい、ともに楽しい時間を過ごすそうと、盛大に忘年会を行っている。



しかし、コロナ禍の影響でここ3年は開催出来ず、4年ぶりの開催となった。会場となった、地元伊達市のホテルロイヤル特設会場には、総勢36名の従業員とその子供たちが集まり、美味しい食事間、楽しい時間の中で盛り上がった。

私の一冊

記者たちは海に向かった(門田隆将)



記者たちは海に向かった 門田隆将

旅好きな私、中井英策商店社長の及川が最近読んで面白かった本、感動を受けた書籍を紹介するコーナー。

今回は、あの思わしい東日本大震災から間もなく十三年、福島県の地元紙、福島民友新聞社の記者たちが未曾有の震災に立ち向かい取材に当たったドキュメント、「記者たちは海に向かった」を取り上げる。

一人の人間としての感情のはさまに揺れ動く、彼らの心情に思いを寄せるとき、言いようのない切なさがかみ上げて来る。

1月22日 9:00 クラウドファンディングスタート

『なせど成らぬことばかり』されど楽し我が人生



人生にはいつもいつも、大きな壁が...

頑張っても、頑張っても上手く行かない、行く手にはいつも大きな壁が...、そんな波乱万丈な人生を送って来た、中井英策商店及川社長の失敗だらけの半生を、生々しく赤裸々に綴った自筆本をこの夏、出版発売します。

中井英策商店代表、及川昌弘社長直筆本の夏出版します



中井英策商店 出版事業部

QRコードからご支援頂けます





思い出旅日記・鉄道編②



鉄道大好き社長であり、中井英策商店代表の及川昌弘が思い出の旅に出る。全国的な鉄道に乗って旅するレポート、乗り鉄旅シリーズ。今回で第20回目の今回は、私が以前出張で利用した瀬戸大橋を渡るJR西日本の路線「瀬戸大橋線」に再び乗車、岡山駅から四国高松駅まで旅したレポートをお届けします。技術立国を誇る日本が誇る瀬戸大橋を満喫の路線に大満足の旅でした。



岡山駅と桃太郎の銅像



岡山城と川面に映る岡山城



橋の向こうは日本三名園のひとつ後楽園



瀬戸大橋を渡る列車からの車窓



瀬戸大橋記念公園

壮観瀬戸大橋を堪能路線「岡山〜高松JR瀬戸大橋線」

瀬戸大橋線は、1988年4月に開通した岡山駅と高松駅を結ぶ71.8kmの比較的短い路線だが、その名の通り圧倒的なスケールを誇る瀬戸大橋を走り抜ける醍醐味がこの路線のメイン。

普通列車よりも、快速となるマリナーと呼ばれる電車がほぼ30分ごとを走り、今回も早朝9時5分岡山発のマリナー高松行きに乗り込むことを決めた。

その前に、折角岡山に来たからには一度は見たかった日本三大名園のひとつ岡山後楽園に向かった。前泊した岡山駅前のホテルから路面電車ですべて訪ねたことになったことに満足した私だった。

私個人としては、金沢の兼六園、水戸の偕楽園、そして岡山の後楽園の日本三大名園に満足した私だった。

隣には大きなタワーがあり、折角なので登ってみようと思いついたのだが、公園利用者が少ないのか？休止中の立って札が・・・、少しがっかりしながら、それでも殆ど乗場者がいないあの状況では仕方ないのかも知れない。(次のページに続く)

個人的には、どちらかと言うと花より団子のタイプの為、庭園の素晴らしさは良く分からないが、岡山城主戦国武将の池田家が整備した庭園であり、岡山市民が誇るだけのスケールはあるなあ・・・と感じる。

小綺麗な車両は岡山市街地を走り抜けると、次の停車駅妹尾せのつへ、車窓からは大きな醤油製造工場が見え、瀬戸内に来たのを実感する。

そして、いよいよこの路線のハイライト、瀬戸大橋へ。瀬戸大橋は、最上部が車が走る高速道路とその下がJRの鉄道が走る二重構造になっているのが最大の特徴で、海面上からかなり高い所を走る大きな建造物と言う印象。

やがて列車は四国に入り、大きく左旋回した後に香川県最初の駅、坂出駅に到着、ここで途中下車し、お目当ての瀬戸大橋記念公園に向かった。坂出駅からは少し遠い為、タクシーを利用、約10分程度と、少し駅から遠かったが、公園から見える瀬戸大橋の壮さに再び感動した。

記念館から見る瀬戸大橋の壮観さに感動。隣には大きなタワーがあり、折角なので登ってみようと思いついたのだが、公園利用者が少ないのか？休止中の立って札が・・・、少しがっかりしながら、それでも殆ど乗場者がいないあの状況では仕方ないのかも知れない。(次のページに続く)



記念館から見た瀬戸大橋



新年、明けましておめでとうございます。お得意様、お客様におかれましては、素晴らしい新年をお迎えになったこととお慶び申し上げます。昨年は、泥沼化するような世界情勢、物価高や治安情勢の悪化など、個々は本気で日本なのか？と思わせるような一年、あまり明るくない一年になりました。当社につきましても、ウクライナ戦争の長期化などに端を発した、原材料特に飯寿司には無くてはならない、原料魚の価格高騰など、本気で厳しい一年となりました。

先人達の思い受け継ぎ、商品開発へ

当社の先代社長、三代目中井英光は生前「真面目に良いものを作りたい、必ず認められる日がある。中井英策商店に属して欲しい」と願っていました。私も全く同感です。会社である以上、売上げを上げて利益を確保し、営業を継続させることが目的ではありません。しかし、それ以上に大切な事があります。当社、中井英策商店で懸命に働く従業員やその家族、取引先企業、営業マンの皆さん、もちろん当社商売を頂いているお得意様、お客様全てにおいて、満足して頂き、幸せになって頂く。これが何より大切なこと信じています。そんな、何より暖かな、人を大切に守る会社になりたいと願っています。中国の故郷に「最初に井戸を掘った人のことを忘れなさい」という一節があるそうです。最初に井戸を掘った人のおかげで美味しい水が飲める・・・という例えです。

キンキのいずしを世に初めて登場させた、先代中井英策社長。そして何より「飯寿司」という食文化を生み育てた先人たちの思いを胸に、これからも精進努力して参ります。今後とも、何卒宜しくお願い申し上げます。

株主中井英策商店 代表取締役 及川昌弘



ロケを行う当社工場内



人気キャスターと及川代表の対談も



今年も春の催事、イベント出店が来月2月から本格スタートすることになった。当社では、地元北海道をはじめ、全国の百貨店やスーパー、セレクトショップなどで行われる対面販売イベントに出店参加しているが、今年も2月7日初日の、JR札幌駅北口コンコースのどきんぐらザ札幌店で開催される「いぶりのフェア」をスタートに、今年も4月、5月まで道内外での物産展やイベントへの出店参加を行うことになった。出店は、いぶりのフェアに続いて2月17〜18日に、青森県青森市内の観光物産館アスパムで行われるイベント「冬の来月札幌からイベント始まる」A-LINE」に参加が決定、昨年が続いて2年連続の出店となる。また、3月15日から3日間、大阪市の阪神百貨店で開催される「北海道いぶりのフェア」にも出店参加要請を受けており、春のイベント参加は今年も積極的に出店を予定している。

昨年末もメディア賑わす いずし文化告知に大きな貢献 HBCでは特集番組も

当社、中井英策商店は、昨年十一月から年末にかけて、毎年恒例にもなった感のある道内外のテレビ局や新聞社などの取材、ロケ依頼を受け、多くのメディアに露出、道内HBC北海道放送では、飯寿司を取り上げる特集コーナーを放送するなど、いずしの食文化のPRに一役買ってもらえる効果となった。毎年、年末にはテレビ局などの取材を受けることが多い当社だが、昨年末は例年以上の取材が訪れ、当社工場内はカメラと照明が照らされる賑やかな工場風景が見られた。

中でも、HBC北海道放送では、夕方の人気番組「今日ドキ」の人気キャスターのグッチさんが当社を訪れ、当社及川社長との対談を行い、飯寿司の歴史や発酵食品の素晴らしさなどを伝える、特集コーナーを放送するなど、年末の食卓に欠かせない飯寿司の告知、PRに大きな貢献を行ってくれた形となった。

この度の「能登半島地震」で、被害に遭われた皆様に対しまして、心からお見舞い申し上げます。一刻も早く日常の生活を取り戻され、復興に向けての歩を進まれますよう、お祈り申し上げます。

(株)中井英策商店 代表取締役 及川昌弘